④ 形の選択について

形は，中身の大きさに合わせることを条件として選択させた。本時の授業により，事前テストと比べて考え方が変わる傾向がとらえられた。なお，事前テストは，前提能力の下位テストとして，本時の内容を中心に調査したものである。

教師の働きかけと学習活動

標本の提示・それぞれの形の特徴についての話し合い

※は，つまずきの事例

〈ひもつき平型 ⟶ つつ型〉

(1) どんな形―ひもつき平型
(2) えらんだわけ
作るのにかんたんだから
(※1)

⇒

(3) 変こうした形――つつ型
(4) 変こうしたわけ
ひもつきは，朝起きたとき，はずれたり，ひもがとれていることがある。
ふくろ型は，作り方がむずかしい。

〈つつ型 ⟶ つつ型〉

(1) どんな形――つつ型
(2) えらんだわけ
ひもを結んだりする手間がかからない。 (※2)

⇒

(3) 形は同じ
(4) えらんだわけ
ひもつきは，顔にあたると痛い。
ふくろ型は，きちんとしないから，だらしなく見える。

(※1)
長く使用することを考えず，自分が作るのに簡単なことばかり考えている。指導によりはずれやすいことに気づく。

(※2)
ひもつき平型の使用について，あまり実際的でない思考をしている。使用する場合のことを考えるようにしむける。

この2例でわかるように，始めは表面的なことをとらえていた児童が，標本の観察や話し合いにより，実際的な考え方に変わってきている。実際に作るときのこと，使うときのことを予想して考えられるようになり，思考の深まりが見られる。学級の全体的な傾向は，次のようである。

〈えらんだ形〉	1 回 目	2 回 目
つつ型	57.1%	68.5%
ふくろ型	40.1%	31.5%
ひもつき平型	2.8%	0%

⟶

〈えらんだわけ〉 つつ型の場合

○カバーがとれにくい。
○材料が少なくてすむ。
○まくらの形に合う。
○大きさに合わせて作れる。
○作りやすい。
○出し入れが簡単。
○形がよい。
○使いやすい。

ここには，つつ型の理由しか示していないが，児童は，それぞれの形の特徴として考えられるものをよくは握しており，形の選択の際にかなり具体的に思考していることがわかる。また，3つの形について比較検討して考えており，自分のまくらの状態（形や大きさ）・ねぞうの悪さなどから，必要に合わせて作ろうとする態度が見られた。